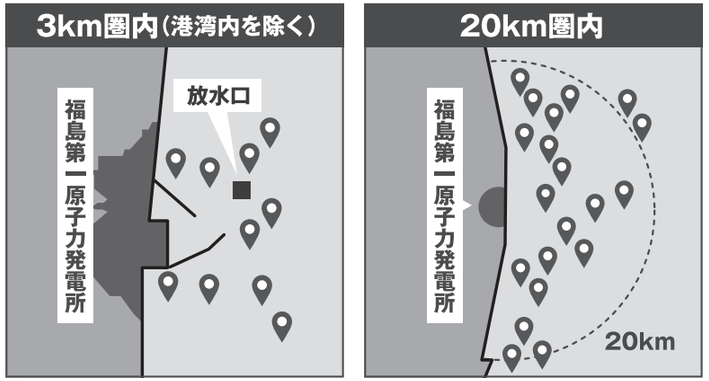
福島第一原子力発電所「周辺海域のモニタリング状況」のお知らせ（2026年11月）

TEPCO

東京電力ホールディングスは2022年4月から、発電所近傍や福島県沿岸の海域において、トリチウムを含む放射性物質の監視（モニタリング）を強化しています。

海域モニタリングにおけるトリチウム濃度は、運用上の指標（放出停止判断レベル：700ベクレル／リットル）を大きく下回り、計画どおり安全に放出できていることを確認しています。引き続き、ALPS処理水の海洋放出における安全性の確保に万全を期してまいります。



：採取地点（海水）　定期的に試料を採取し、放射性物質濃度を測定。

	エリア	海水の測定結果【単位：ベクレル／リットル】（2026年10月1日～10月末までに得られた測定結果の最大値）
トリチウム	3km圏内	16【迅速測定*1】
	20km圏内	検出せず（<9.8）【迅速測定*1】
【参考】セシウム134*2	3km圏内	検出せず（<0.93）
	20km圏内	検出せず（<0.0014）
【参考】セシウム137*2	3km圏内	0.29
	20km圏内	0.047

「<」の右側の数値は検出下限値。検出下限値を下回った場合は、検出せずと記載
＊1：トリチウムの検出下限値を1リットルあたり10ベクレル程度とし、測定時間を短縮して迅速に結果を得る測定
＊2：福島県周辺海域において海洋放出開始前（期間：2019/4～2023/7）に検出されたセシウム134および137の最大値は、それぞれ0.057ベクレル／リットル、7.9ベクレル／リットルでした。（出典「環境放射能・放射線データベース」、「東京電力ホームページ」）

海域モニタリングの結果

当社が測定した海水や海産物の放射性物質濃度に、**有意な変動は確認されていません。**

詳細は当社ホームページをご覧ください。

https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/watertreatment/monitoring/

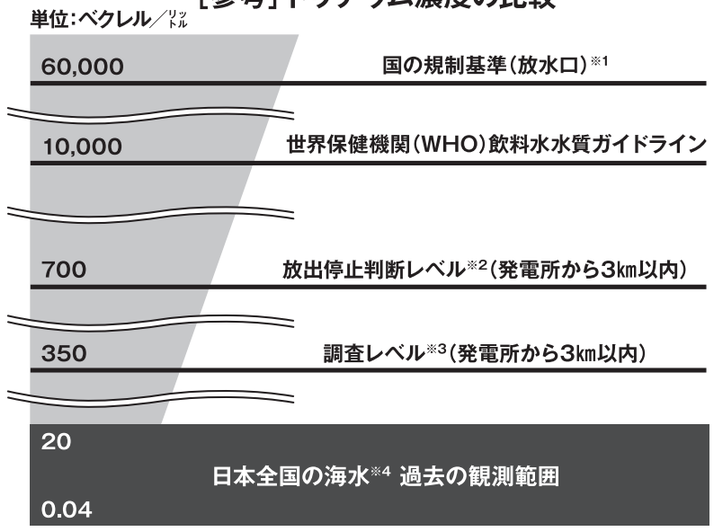
包括的海域モニタリング閲覧システム（ORBS）

当社以外の各機関（環境省、水産庁、原子力規制委員会、福島県）が測定した海水および水産物の放射性物質濃度も**有意な変動は確認されていません。**

詳細は各機関の分析結果を一元的に確認できるORBSをご覧ください。

https://www.monitororbs.jp/

［参考］トリチウム濃度の比較



※1．70年間、原子力施設の放水口から出る水を、毎日、その濃度で約2リットル飲み続けた場合に1年間で平均1ミリシーベルトの被ばくとなる濃度から定められた国の規制基準
※2．設備の運用としてALPS処理水の海洋放出を停止する指標
※3．「放出停止判断レベル」に達する前の段階において必要な対応を取る指標
※4．出典「環境放射能・放射線データベース」（期間：2019/4～2023/7）

東京電力ホールディングス株式会社　福島第一廃炉推進カンパニー（福島県双葉郡大熊町大字夫沢字北原22）